

議会の役割と学校教育

未来のために残すべき最高の宝は、人材であり、その人材を育てることが真の教育です。

もちろん教育とは知識のみではなく、人間形成に必要なあらゆる分野も包括されることはいうまでもありません。

そのため、学校、地域、家庭等がそれぞれの役割で、未来の人材育成に力を注がなければなりません。

しかし、学校における教育がいかに大事なことは万人が認めるものです。

私たちの町でも、独自の事業として、一定規模以上の小中学校1年のクラスへ補助教員(TT)を派遣して児童・生徒の学校生活の安定を図る「いきいき益城っ子育成事業」や、全クラスの補助や生徒指導などの課題に応じた対応を行うための「ドリーム益城っ子事業」を進めています。

議会と学校の関わり

議会は、学校教育の現場に必要な施設、校舎の建て替えや修理、教材や図書などの経費についての



子ども議会中、大人さながらの顔つき

予算の認定、その他学校や教育に関する諸問題について討議を行い、承認することになっています。

特に学べる環境づくりには、大変重要な課題と位置づけられており、老朽化してきた学校施設や設備の計画的な増改築・補修などの予算についても今後一層の計上が見込まれます。

益城町の議会は3つの委員会があります。

- ・ 総務常任委員会
- ・ 福祉常任委員会
- ・ 建設経済常任委員会

提案された案件がそれぞれ、その委員会で審議され、採決を行い、再び本会議で採決されます。

なかでも総務常任委員会に付託される案件には、「学校教育及び生涯学習等に関する件」の審議が含まれています。

議会も未来の人材育成の最前線である教育現場について審議を行う以上は、真剣な討議、討論を重ね、より一層町の教育環境の整備に努めていかなければなりません。

そのために、他の自治体を取り組んでいる先進的な事業の視察、学校環境の充実、子ども議会の開催など積極的に取り組み、議会が果たすべき役割と、教育の一翼を担う責任感の重要性をいま一度確認し、町民および教育に携わる皆様の負託に応えなければなりません。

もうすぐ桜の季節、桜花爛漫の春の「とき」を迎えれば一斉に咲き乱れる桜花(さくら)ばなさえも、

春の「とき」を迎えれば一斉に咲き乱れる桜花(さくら)ばなさえも、



平成22年11月22日行われた子ども議会、答弁の様子

炎熱の夏を過ぎ、冷たい秋雨に打たれ、寒風吹きすさぶ極寒の冬に耐えて、勝ち誇った証として私たちにその桜の舞を見せてくれます。人の一生でいえば、幼少時代は玄冬。万物が萌え出する春に備えて、大地の下にエネルギーを蓄えている。そして時来たり、青春の時代に向け一斉に花開かせるその大事な序曲です。

未来の宝、未来の人材育成の教育を、今再び議会としても真剣に考えます。

(文責 総務常任委員長)